

郡山市セーフコミュニティ推進協議会



自殺予防対策委員会 活動報告

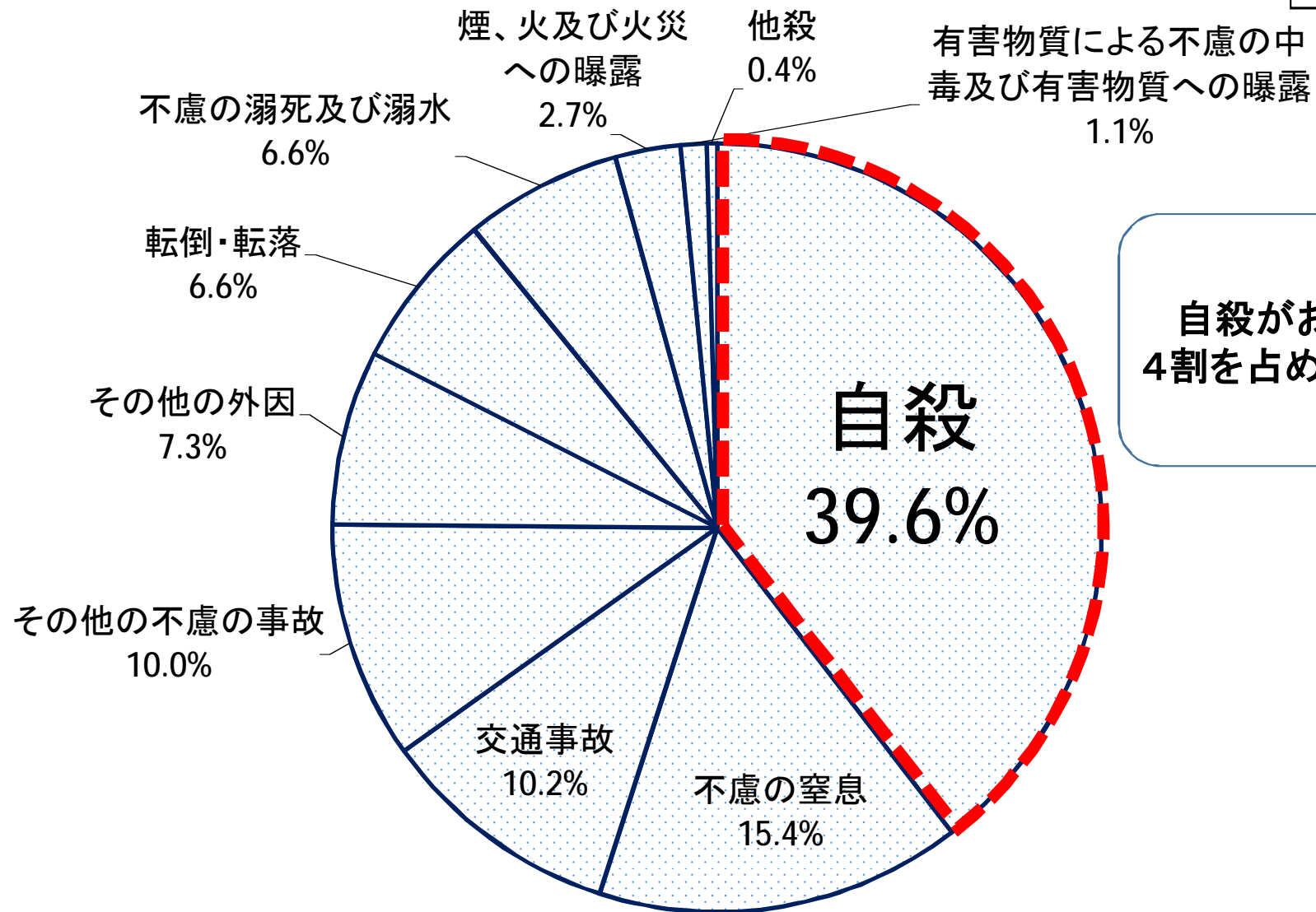


報告者 委員長 若月ちよ

対策委員会設置の背景 1

郡山市の2009～2014年までの死因の割合

図1



自殺がおよそ
4割を占める！！

対策委員会設置の背景 2

郡山市の外的要因による年齢層別死因順位

図2

年齢層	1位		2位		3位	
0-9歳	窒息	3人	交通事故	1人	転倒・転落	1人
10-19歳	自殺	8人	交通事故	1人	窒息	1人
20-29歳	自殺	64人	交通事故	1人	窒息	1人
30-39歳	自殺	62人	交通事故	1人	窒息	1人
40-49歳	自殺	72人	交通事故	13人	窒息	5人
50-59歳	自殺	95人	交通事故	16人	溺死・溺水	9人
60-69歳	自殺	68人	交通事故	17人	窒息	16人
70-79歳	自殺	43人	窒息	33人	交通事故	29人
80-89歳	窒息	71人	自殺	31人	溺死・溺水	30人
90歳以上	窒息	37人	転倒・転落	18人	溺死・溺水	6人
全体	自殺	447人	窒息	174人	交通事故	115人

10代～70代において自殺が1位！！
交通事故による死者のおよそ3.9倍

自殺予防対策委員会の構成

図3





自殺予防対策委員会の構成



◎委員長 ○副委員長

	団体・機関名	職名	氏名	
民間相談機関	ビーンズふくしまこおりやま若者サポートステーション	理事長	若月 ちよ	◎
	福島いのちの電話郡山支部	事務局	渡部 田鶴子	
医療	郡山医師会	理事	佐久間 啓	
教育	P T A 連合会	監事	本田 英郎	
民間団体	郡山地区ハイヤータクシー協同組合	専務理事	土田 恭市	○
	福島県理容生活衛生同業組合	郡山支部長	村上 良明	
警察	郡山警察署	生活安全係長	三浦 純	
精神保健福祉団体	ふくしま心のケアセンター県中方部センター	業務課長	安藤純子	
行政機関	郡山労働基準監督署	安全衛生課長	空閑 秀雄	
	市・保健所総務課	課長補佐	鈴木 修一	
	市・生活支援課	主査	玉木 宏和	



これまでの活動経過①



図4

回	開催日	活動概要
1	2015年7月8日	セーフコミュニティについての概要の説明 郡山市の現状の確認(地区診断、人口動態ほか)
2	2015年8月4日	主観的視点から課題について情報共有 問題・危険性について意見集約 自殺予防活動状況の確認 等
3	2015年9月15日	客観的視点から課題検討 自殺の現状説明と自殺への不安や自殺予防活動など
4	2015年10月13日	課題の検討 主観的な検討とデータを基にした客観的検討
5	2015年11月10日	重点課題の絞り込みと課題の具体化
6	2015年12月14日	課題解決に向けた方向性と対象の検討
7	2016年1月18日	現在行われている対策の確認と取組の検討
8	2016年2月15日	具体的対策の検討



これまでの活動経過②



図5

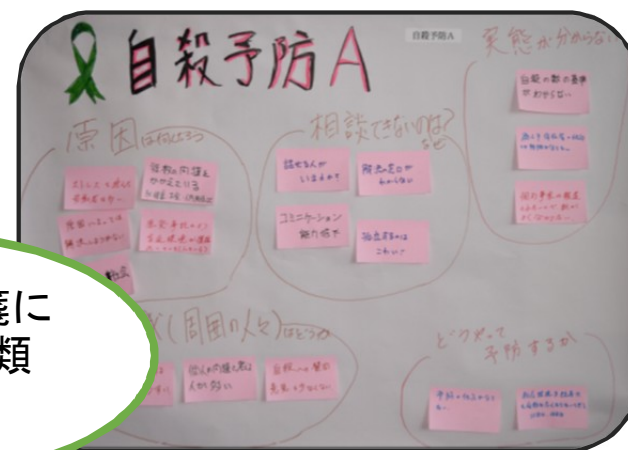
回	開催日	活 動 概 要
1	2016年5月15日	方向性の確認と取組みの検討 データ（2015年度の統計資料）の検討
2	2016年6月7日	方向性の再検討と取組みの検討
3	2016年7月12日	現状把握に必要なデータの検討 統計データから得られないもの 等
4	2016年8月4日	具体的対策の検討
5	2016年10月13日	事前指導リハーサル
6	2016年10月27日	事前指導に向けた修正や最終確認等

主観的視点から課題について情報共有



ワークショップ
形式で意見を出し合い....

意見を付箋に
書いて分類
分け



- ・死にたい気持ちを抱える人を察知できない
- ・自殺に対する意識が低い
- ・個人の問題と考える人が多い
- ・自殺への賛同意見も少なくない

- ・解決の窓口がわからない
- ・健康・お金・人間関係など複数の問題を抱えている
- ・辛い気持ちのときにどこに相談してよいのかわからない

- ・話せる人がいない
- ・つながる方法を知らないとSOSを出せない
- ・心配をかけない・弱音を吐かないほうが良いとする価値観
- ・相談するエネルギーもなくなる(悩みを越してしまうと)

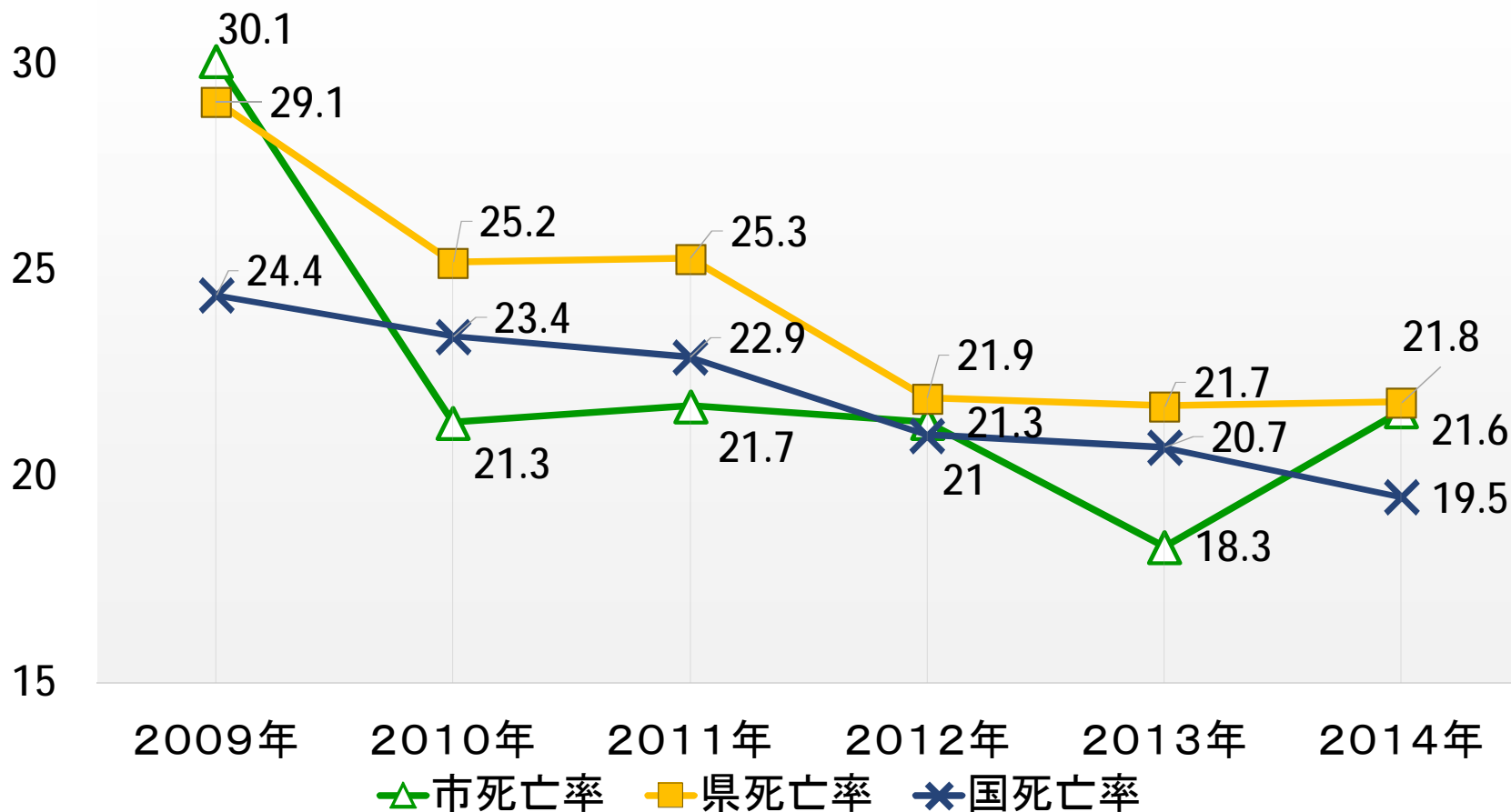
- ・相談できる人がいない
- ・どこに相談したらいいかわからない
- ・なかなか相談できない

客観的データから見た課題 1

国・県・郡山市の自殺による死亡率の推移(人口10万対)

35

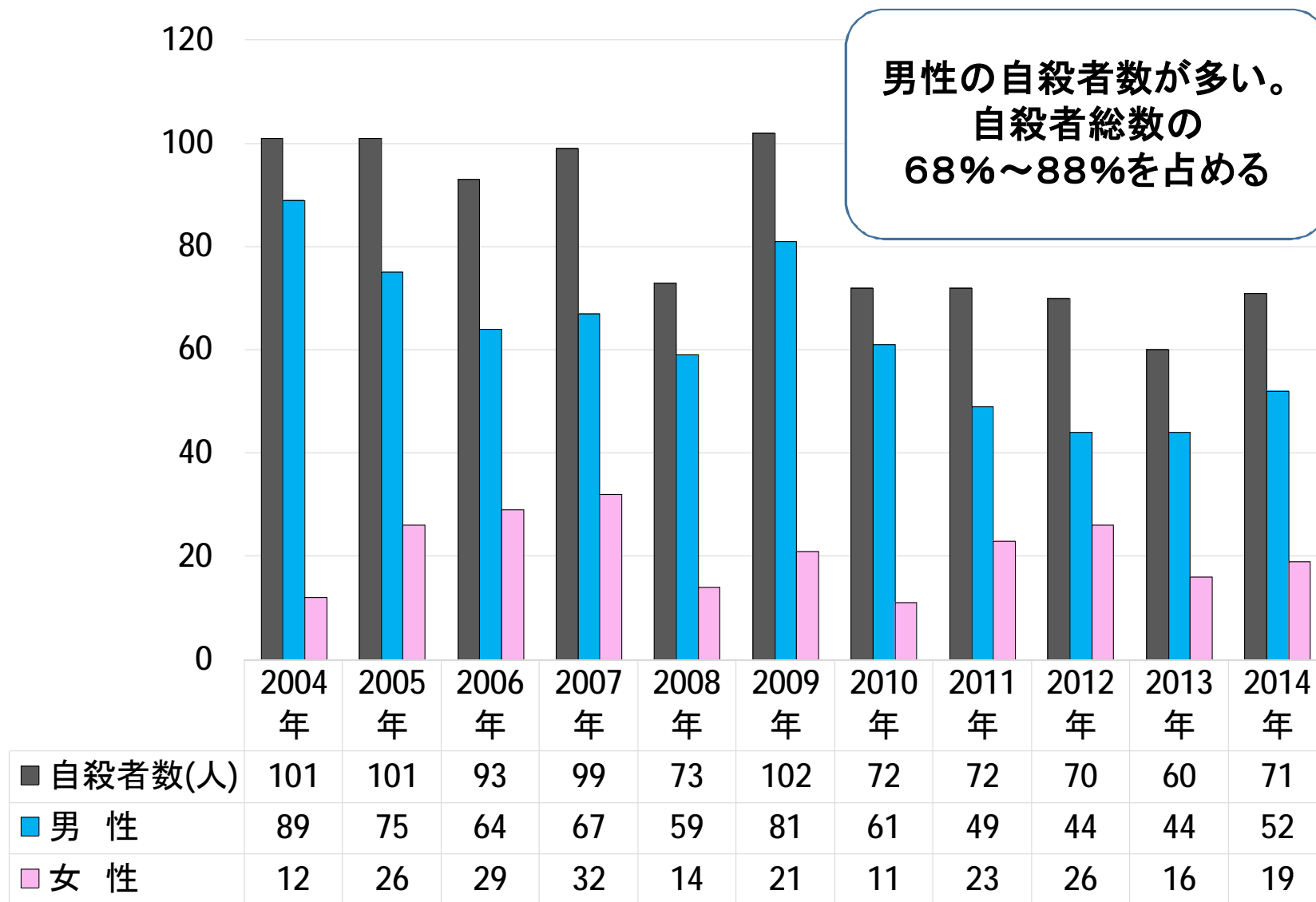
図6



客観的データから見た課題 2

郡山市の各年における男女別自殺者数

図7

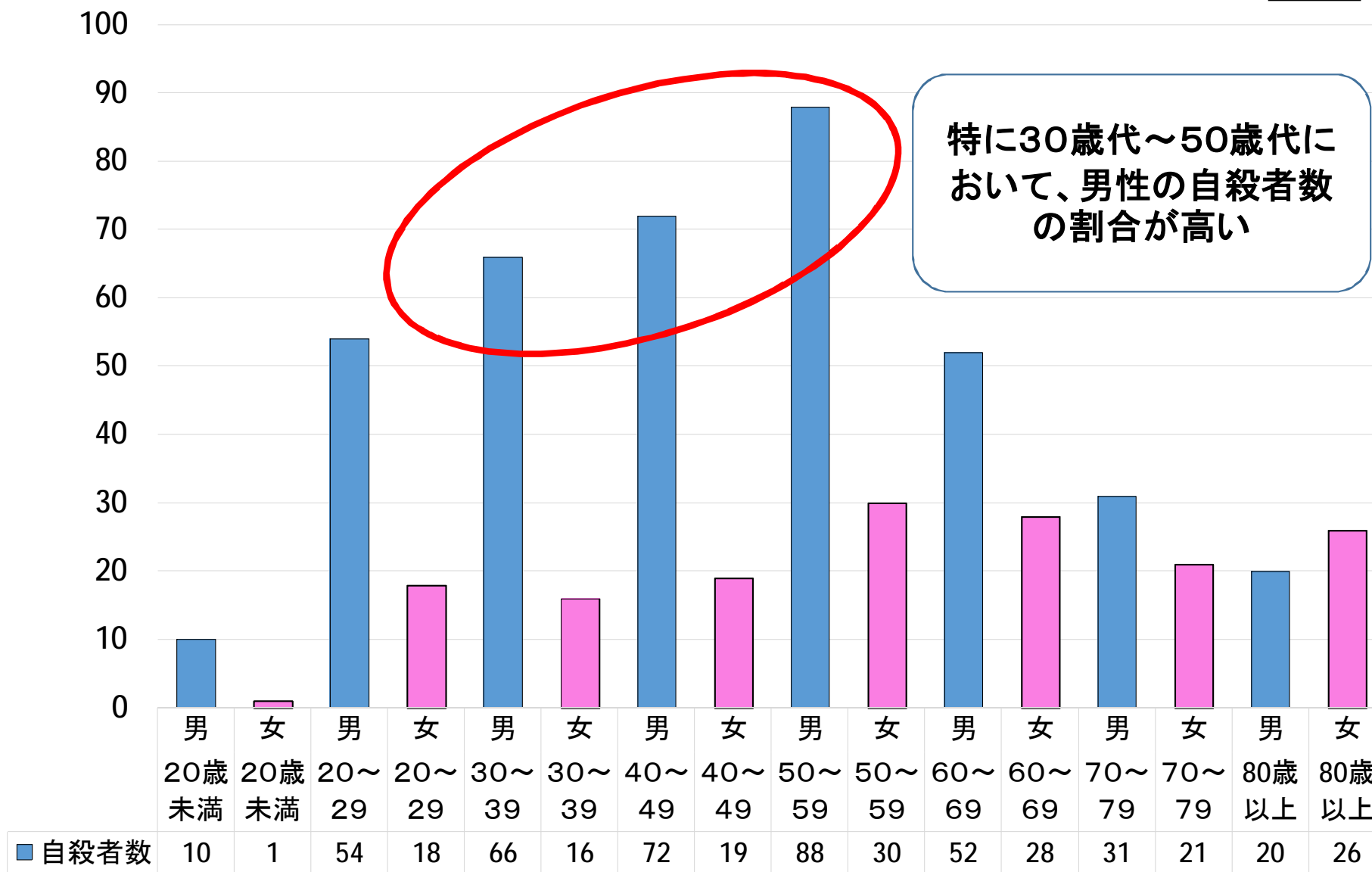


厚生労働省「人口動態統計」より。（日本人を対象とし住所地で計上 ※市町村は年齢別の統計はなし）

客観的データから見た課題 3

郡山市の年代別男女別自殺者数(2009年～2015年の累計)

図8

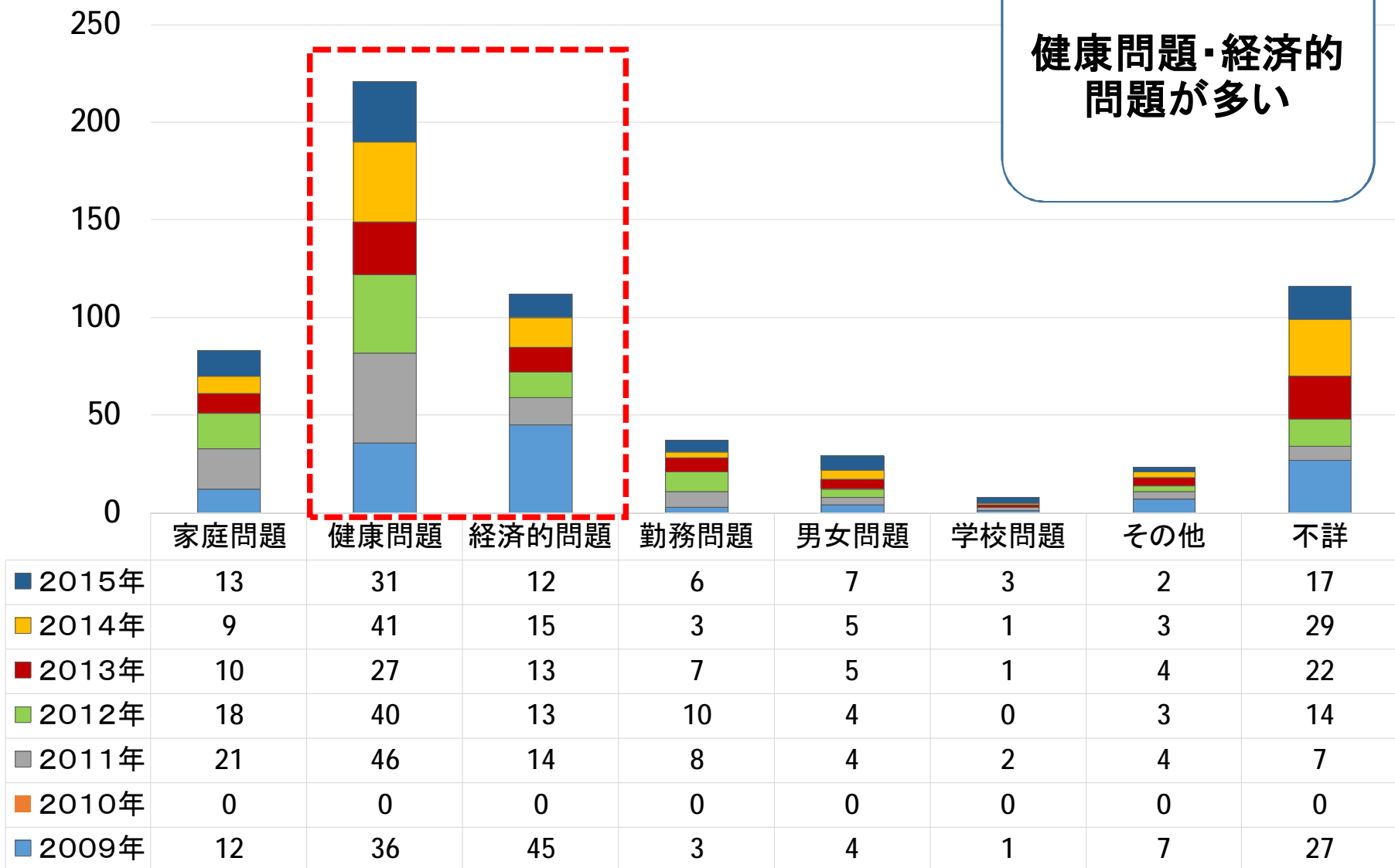


客観的データから見た課題 4

図9

郡山市における自殺者(過去7年間)の原因・動機

健康問題・経済的
問題が多い

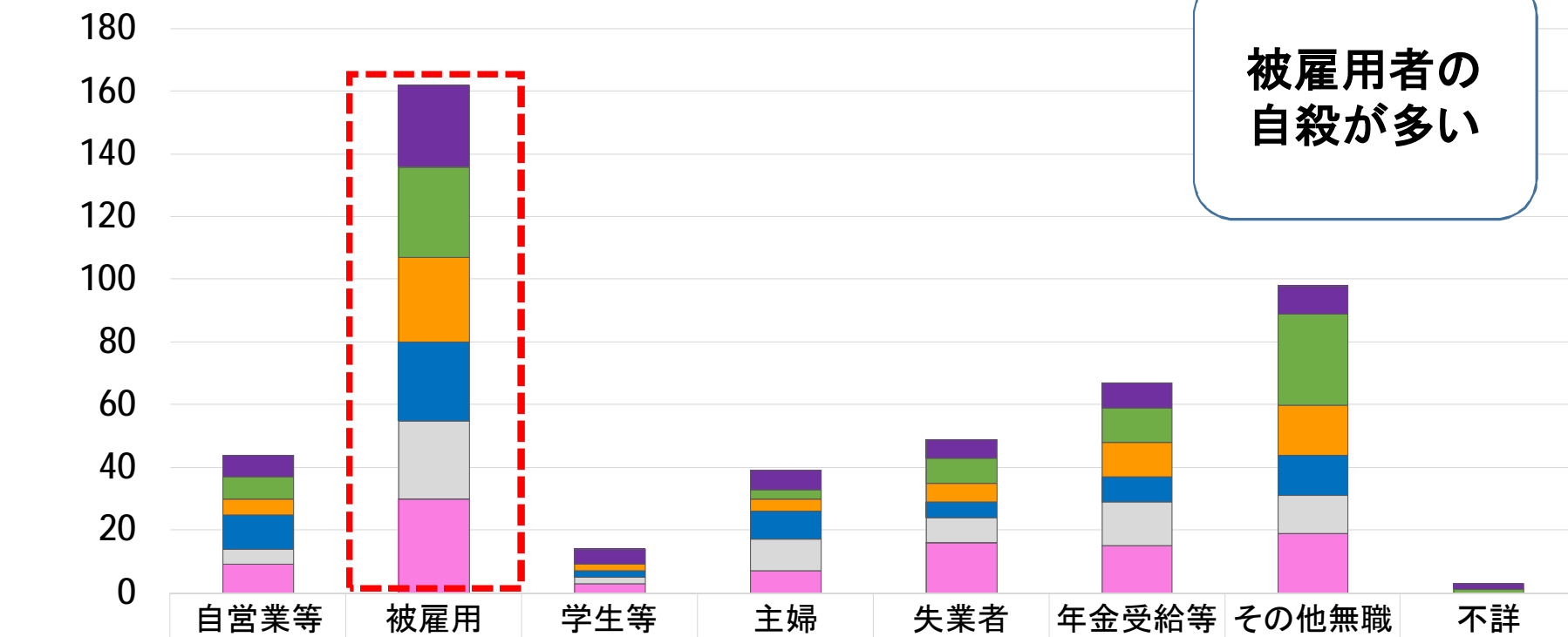


内閣府「自殺の基礎資料」より ※「自殺日」「住居地」により集計

客観的データから見た課題 5

図10

郡山市における自殺者(過去7年間)の職業



	自営業等	被雇用	学生等	主婦	失業者	年金受給等	その他無職	不詳
■ 2015年	7	26	5	6	6	8	9	2
■ 2014年	7	29	0	3	8	11	29	1
■ 2013年	5	27	2	4	6	11	16	0
■ 2012年	11	25	2	9	5	8	13	0
■ 2011年	5	25	2	10	8	14	12	0
■ 2010年	0	0	0	0	0	0	0	0
■ 2009年	9	30	3	7	16	15	19	0

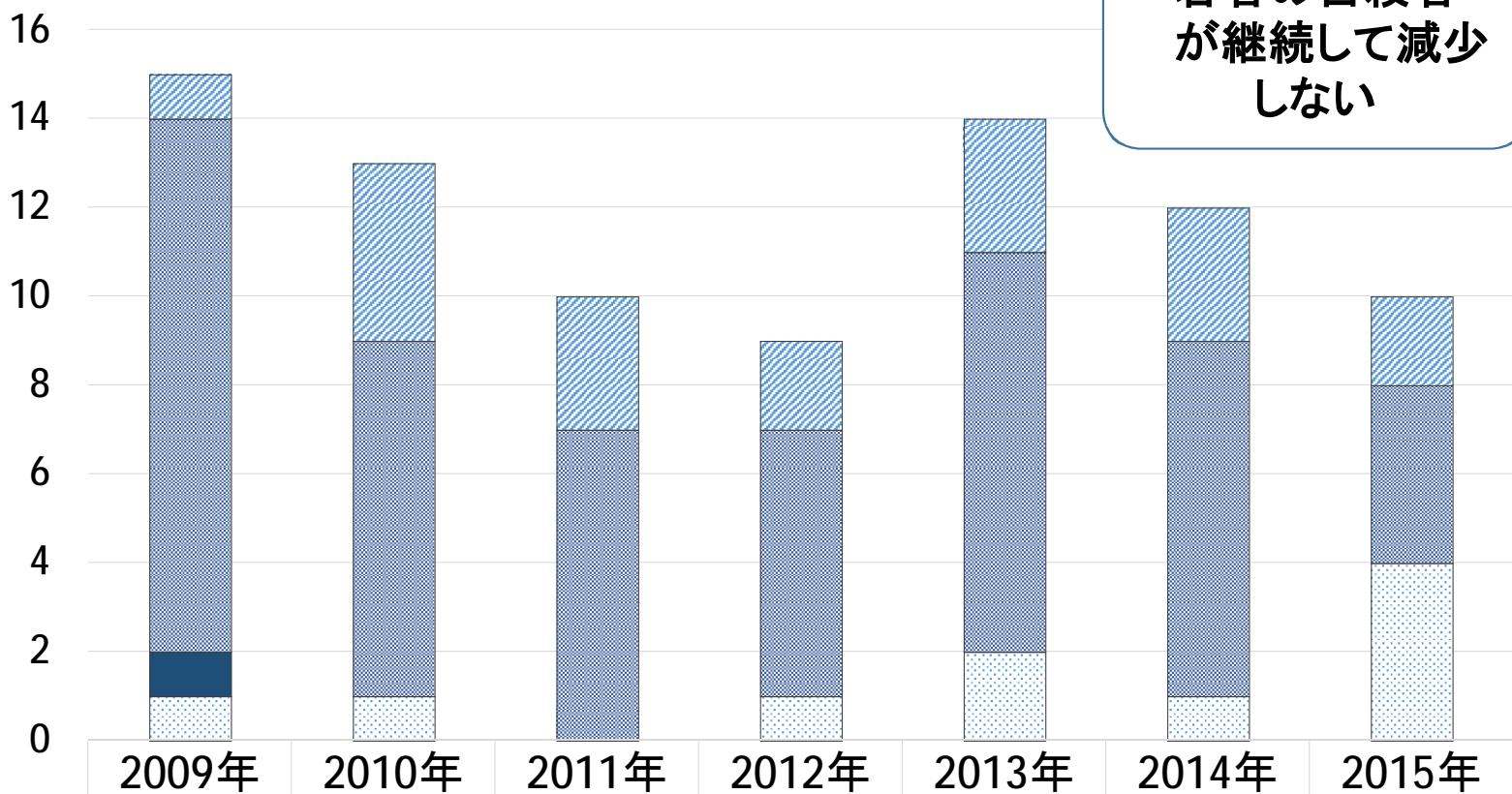
内閣府「自殺の基礎資料」より ※「自殺日」「住居地」により集計

客観的データから見た課題 6

図11

郡山市の30歳未満の自殺者数の推移

若者の自殺者が
継続して減少
しない



20～29 女	1	4	3	2	3	3	2
20～29 男	12	8	7	6	9	8	4
20歳未満 女	1	0	0	0	0	0	0
20歳未満 男	1	1	0	1	2	1	4

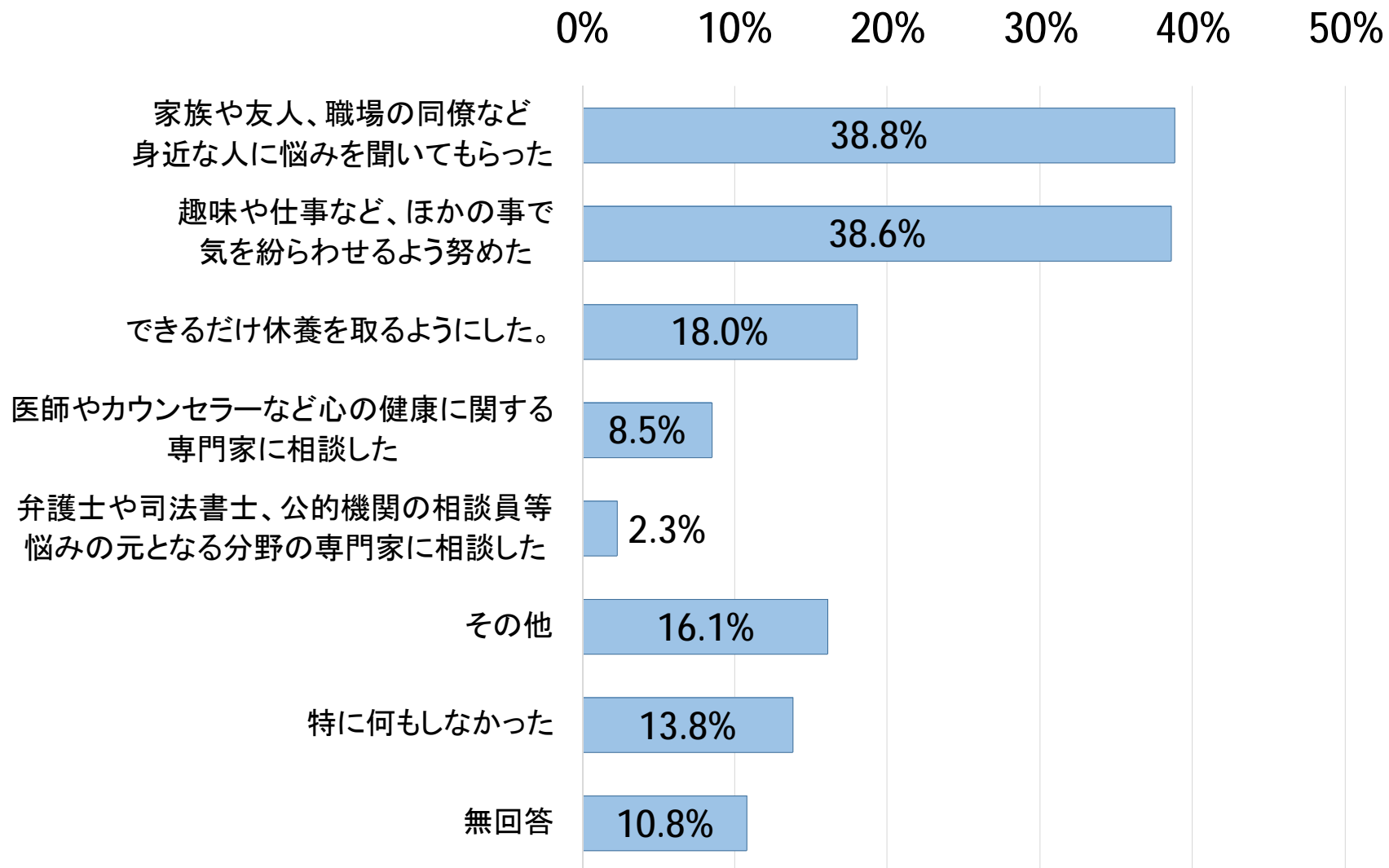
内閣府「自殺の基礎資料」より ※「自殺日」「住居地」により集計

客観的データから見た課題 7

図12

自殺を考えたとき、どのように乗り越えたか

今までに「自殺したいと思ったことがある」と回答のあった472人からの回答(複数選択可)



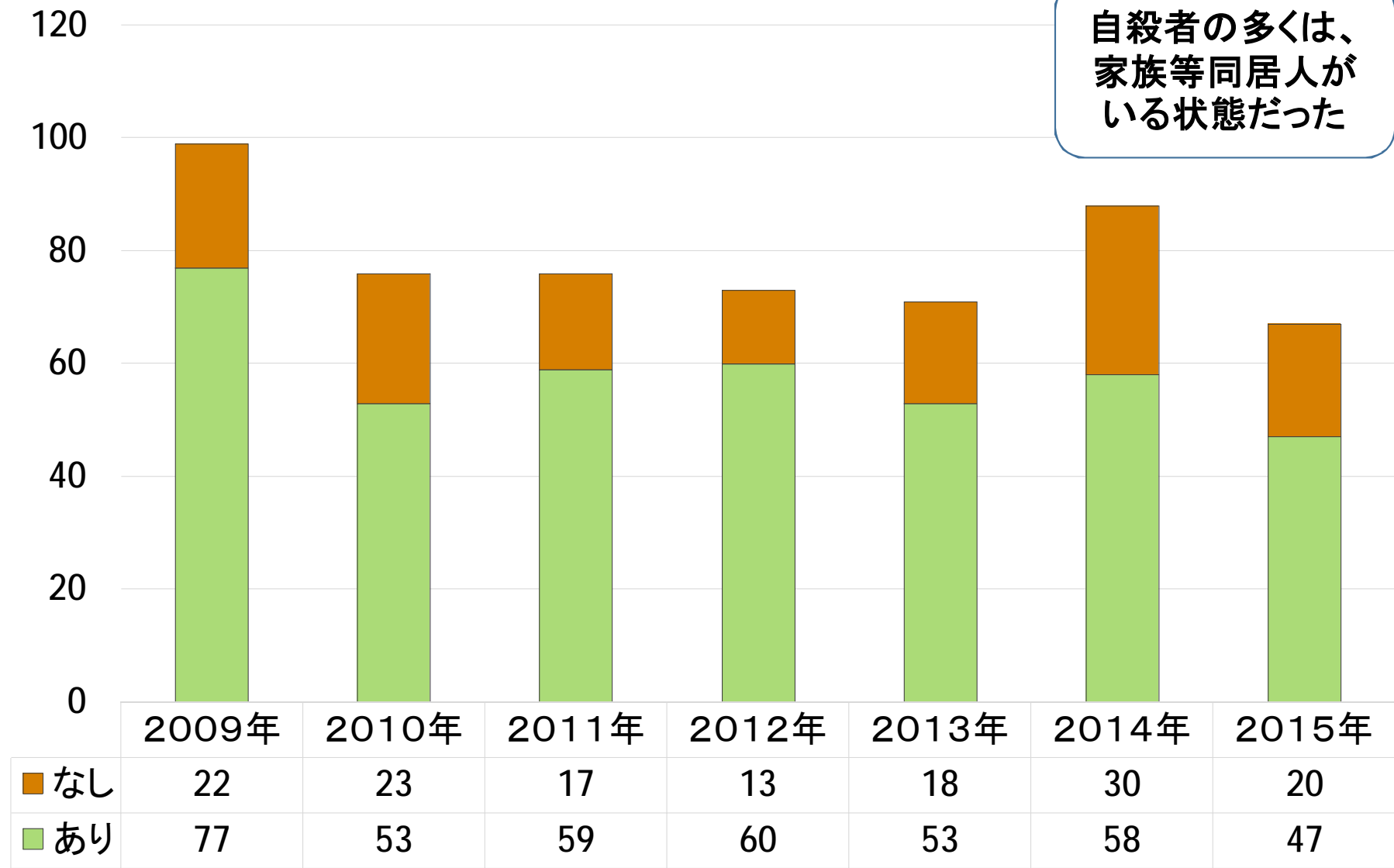
※「地域における自殺の基礎資料(平成26年)」 内閣府自殺対策推進室

客観的データから見た課題 8

図13

郡山市における自殺者の同居人の有無

自殺者の多くは、
家族等同居人が
いる状態だった

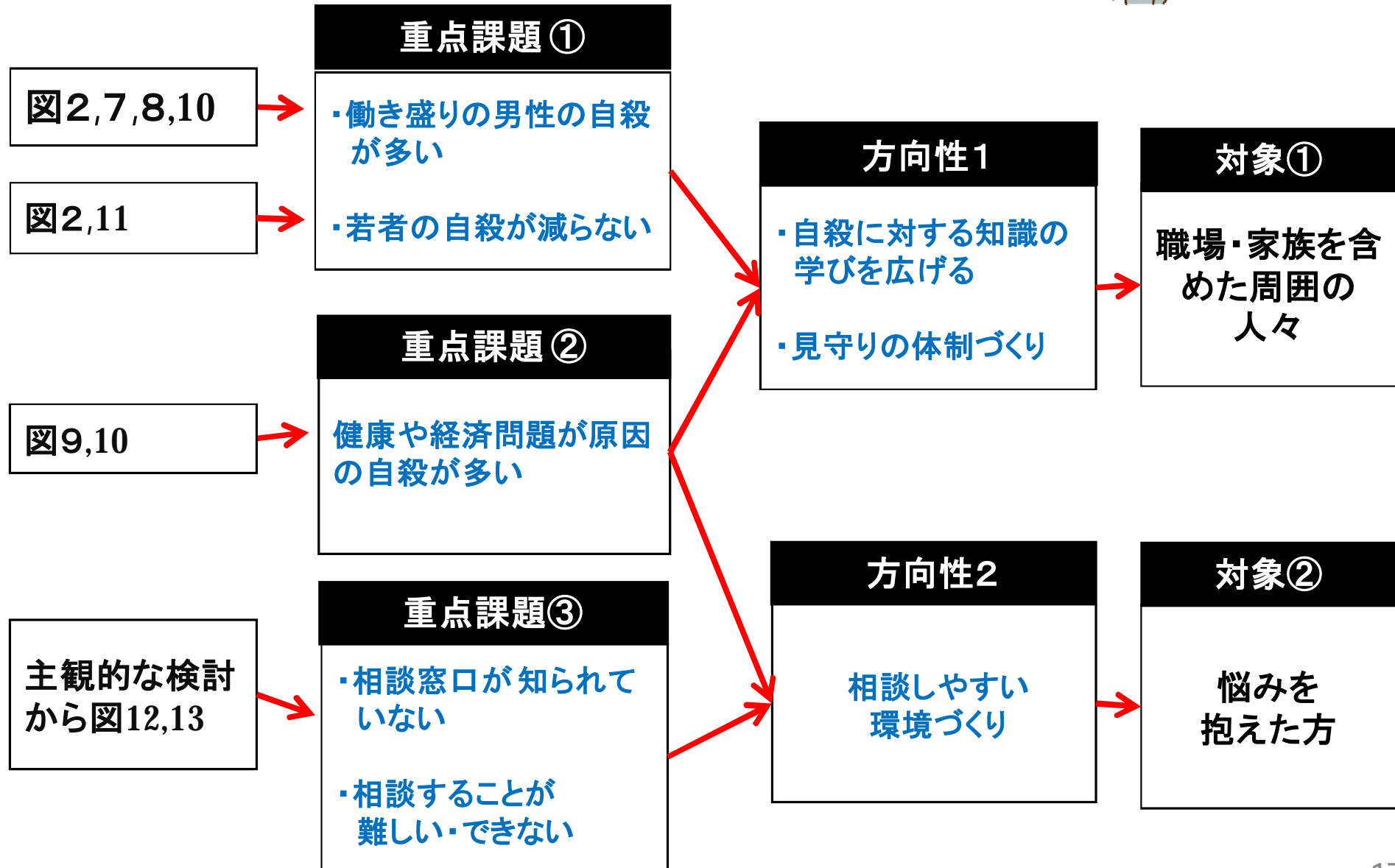




課題・方向性の整理

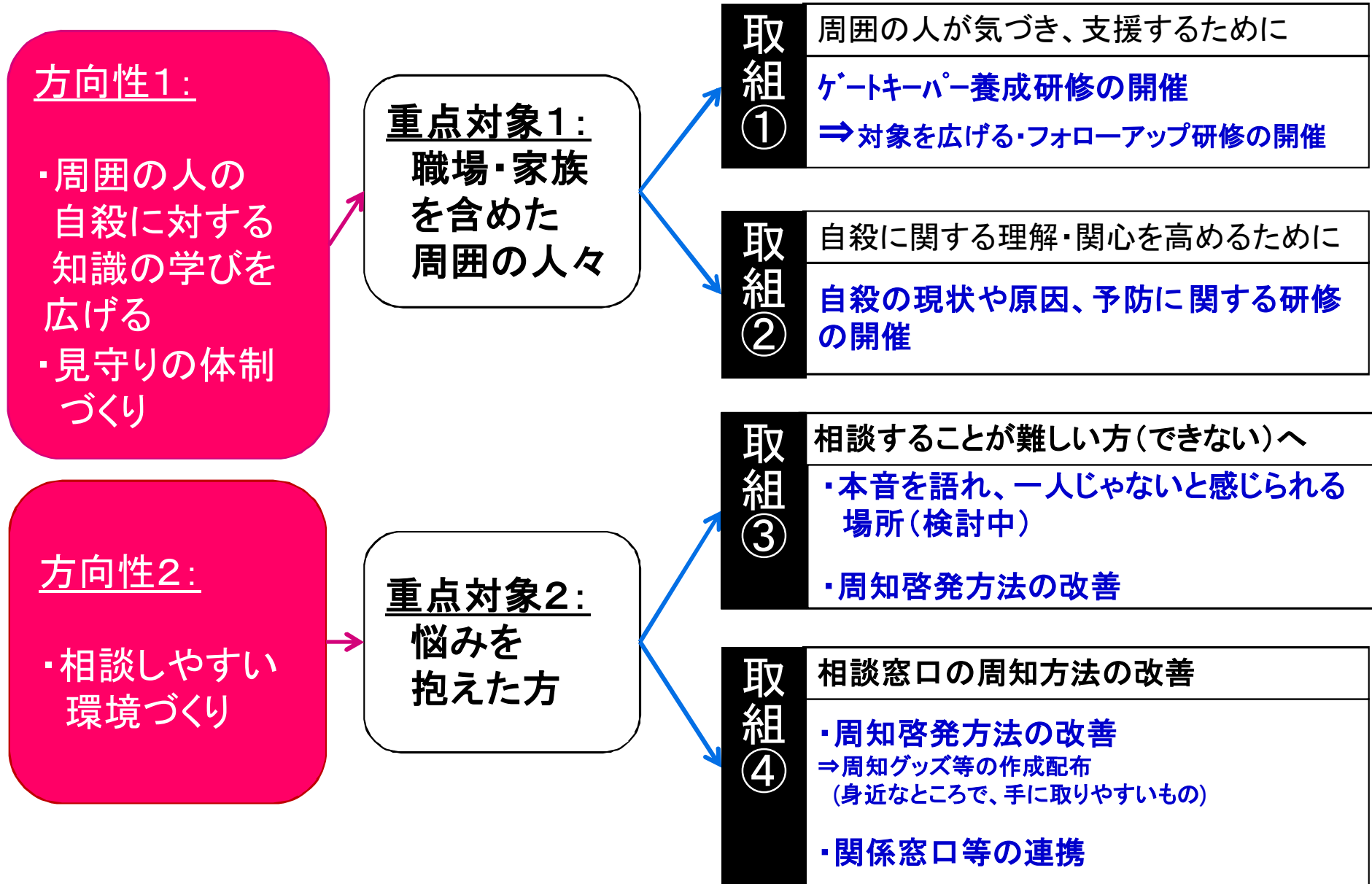


図14



方向性・対象・取組の整理

図15



現在の自殺対策推進のための体制

<p>自殺対策基本法</p>	<p>1998年の自殺者数急増から年間3万人を越える自殺者数が継続した状況への対策として2006年10月施行。国を挙げて総合的かつ計画的に自殺対策を推進するために制定。2016年4月一部改正。</p>
<p>自殺総合対策大綱</p>	<p>政府が推進する自殺対策の指針。誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現を目指す</p>
<p>福島県自殺対策 推進行動計画</p>	<p>5つの柱に基づいた施策の推進 1) 調査研究の実施 2) 未然防止のための取り組み 3) 自殺発生の危機対応のための取り組み 4) 自殺発生後の対応のための取り組み 5) 関係者への支援・協力</p>
<p>郡山市の自殺対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市の自殺対策に関する計画を策定予定 (自殺対策基本法が2016年4月に改正となり、内容に盛り込まれた) ・セーフコミュニティ自殺予防対策委員会

現在の既存の取組

図16

	国	県	市	地域
重点課題① ・働き盛りの男性の自殺が多い ・若者の自殺が減らない	電話・来所相談 ◎国・県・市・民間(全国・地域)各機関・団体において 悩み全般・こころ・労働・犯罪・暴力・法律・人権・消費生活・こども・DV・医療・ひきこもり他			
	ストレスチェック 実施の推進	講演会・講座(心の健康・自殺予防等に関する)		
重点課題② 健康や経済問題が原因の自殺が多い	自殺予防週間(9月)・ 自殺対策強化月間(3月)	自殺対策強化月間(9月・3月)	ゲートキーパー養成研修	
			パネル展示・成人式心の健康等に関するパンフレットの配布	
			訪問事業(保健師)	
		家族教室(うつ・ひきこもり・統合失調症他)		自助グループ活動(アルコール・ギャンブル・自死遺族)
			アルコール談話会	
重点課題③ ・相談窓口が知られていない ・相談することが難しい(できない)	各機関から相談窓口周知用リーフレット等の作成・配布	各機関から相談窓口周知用リーフレット等の作成・配布	相談窓口周知用リーフレット等の作成・配布 ゲートキーパー養成研修や市関係窓口、パネル展示で	各自助グループの活動紹介・相談対応等のリーフレットの作成・配布

方向性1

周囲の人の自殺に対する知識の学びを広げる・見守りの体制づくり

取組① ゲートキーパー養成研修の開催

改善

概要

自殺予防への市民の関心を高め、自殺に傾く方の早期発見・早期対応を担う人材を養成するための研修会の開催(自殺予防のためのゲートキーパー/命の門番の養成)。

実施主体

郡山市

受講団体等

一般市民、民生委員ほか地区組織団体等、訪問介護ヘルパーほか福祉関係職、理容業・鍼、灸、マッサージ師、中小企業等の民間団体、小中学校教員等、市職員

活動実績

受講者数	平成26年	600人
	平成27年	420人
	平成28年(8月末)	197名

SCをはじめてからの変化

- ・若年層の自殺対策として、小中学校の教員等を対象に研修会を開催。
- ・一般市民の研修会の開催を2回に増やす。
- ・フォローアップ研修を開催予定



方向性2

相談しやすい環境づくり

取組④ 相談窓口の周知方法の改善(周知グッズ等の作成配布)

改善

概要

自殺対策強化月間等におけるパネル展示等の開催、成人式における心の健康に関するパンフレット配布、相談窓口周知用リーフレットの様々な窓口・店舗での配布を行っている。

実施主体

郡山市、自殺予防対策委員会

活動実績

今年の「秋の交通安全運動」への参加
・配布物 相談窓口周知用チラシ 1,100枚



SCをはじめてからの変化

- ・街頭活動を実施(SC)
- ・カードタイプの相談窓口周知用リーフレットを作成・配布

※行政機関だけでなく、
理容店・美容店・薬局等の店舗・窓口を
通じ、配布。



検討中の取組について 1

方向性1

周囲の人の自殺に対する知識の学びを広げる・見守りの体制づくり

取組②：自殺に関する理解・関心を高めるための対策

・自殺の現状や原因となる状況に関する研修の開催

・交通事故は新聞に載るが、自殺はほぼ掲載されない。
日本の、郡山の自殺の現状を皆わからないのではないか。

・自殺の問題。関わりの無かった人は、他人事だと関心をもたないのでは。

●市民を対象とした研修会の開催
自殺のことをわかってもらう、関心を持ってもらうことが必要。



検討中の取組について 2

方向性2

相談しやすい環境づくり

取組③：相談することが難しい方(できない)への対策

・(検討中)本音を語れ、一人じゃない と感じられる場所

・「自殺予防」を掲げた場所では、来る人がないのでは

・家族にも相談できない人には、このような場所が必要ではないか

・(検討中)「相談すること」の、ハードルを下げる

・相談窓口がすぐわかることも「相談しやすくする」ことの一つ→ 対策④

・日本人は周囲に心配をかけない・弱音を吐かないことを良しとするような考えがある。そうしたことから相談しにくいのでは
→何が必要か

検討中の取組について 3

方向性2

相談しやすい環境づくり

取組④: 相談窓口の周知方法の改善

・関係窓口等の連携

郡山市保健所を
ご紹介します



・各相談窓口などの
連携も大事なのでは
ないか

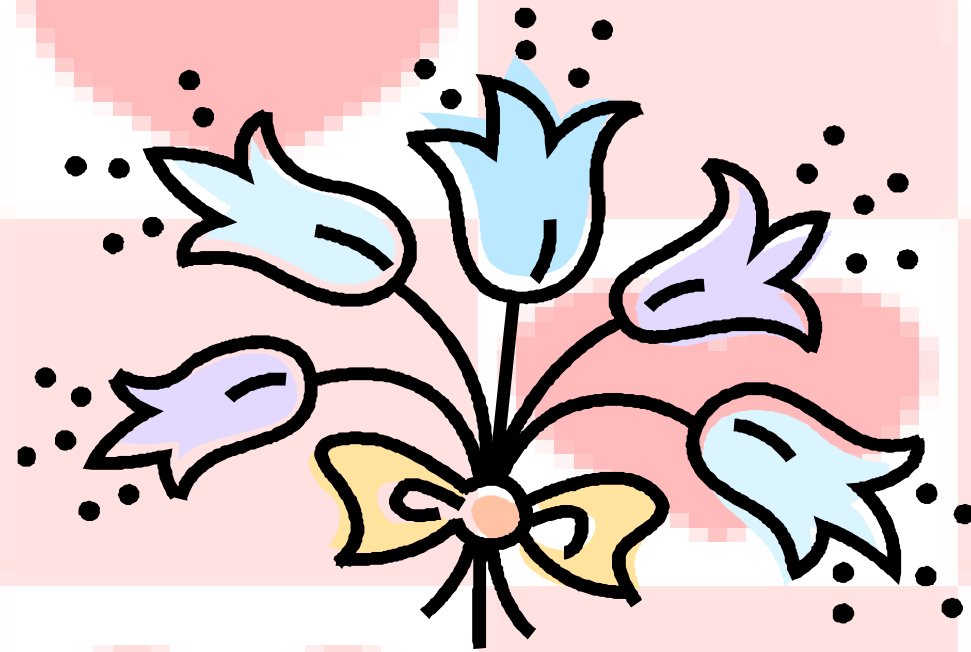
郡山市保健所の
〇〇さんですか



現在の到達点と今後の方向性

図17

重点課題	現在の到達点	今後の方向性
<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働き盛りの男性の自殺が多い ・若者の自殺が減少しない 	<p>○具体的な対策</p> <p>ゲートキーパ養成研修の対象を広げ、フォローアップ研修も開催 (今年度予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民対象の回数を増やした ・若者対策として教職員等を対象に開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施内容について評価指標を検討する ・検討中の取組について実施できるレベルまで話し合う ・その他、必要な取組について検討する ・入手したいデータを話し合い分析を重ねる
<p>②</p> <p>健康問題や経済生活問題が原因の自殺が多い</p>	<p>※他 これからの検討</p>	
<p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談窓口が知られていない ・相談することが難しい・できない 	<p>○具体的な対策</p> <p>イベントでの周知グッズ等(リーフレット他)の配布。</p> <p>より手に取りやすい、相談窓口周知カードを作成(連携民間団体を通じて配布)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・評価指標を検討する ・参考になるデータを探す ・必要な対策を実施できるレベルまで話し合う。



ご清聴ありがとうございました。